
問 題 (20点)

次の資料に基づいて、買入部品Xについての材料元帳を記入し、材料勘定の()内に適切な数字を記入しなさい。なお、いったん出庫した材料の返還についての材料元帳への記入は、払い出し欄に朱書きまたは、かっこ書きで行うこと。

(1) 買入部品Xに関する6月の記録は次のとおりである。

6月1日 繰越180,000 (15個)

5日 掛仕入 200個 購入代金@12,000円 引取費用80,000円は当社が負担した。

6日 製造指図書No. 5に対する出庫 160個

10日 掛仕入 300個 購入代金@11,000円 引取費用135,000円は当社が負担した。

12日 製造指図書No. 7に対する出庫 155個

20日 製造指図書No. 10に対する出庫 190個

25日 6月12日出庫分のうち15個が倉庫へ返還された。

30日 実施棚卸の結果、実際残高が帳簿価格より1個少ないことが判明した。

(2) 購入原価は、部品購入のつど購入代価に、内部材料副費予定配賦額(購入代金の5%)と引取費用を加えて計算している。なお、引取費用は、いずれも小切手を振り出して支払った。

(3) 買入部品Xの消費価格の算定は先入れ先出し法による。

(4) 6月30日に判明した実際残高と帳簿残高との差額1個は正常な範囲内にあるため、これを原価に計上した。

品目名 部品X

材 料 元 帳

月 日	受 入			払 出			残 高		
	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額
6 1	15	12,000	180,000				15	12,000	180,000
5	200	13,000	2,600,000				15	12,000	180,000
							200	13,000	2,600,000
6				15	12,000	180,000			
				145	13,000	1,885,000	55	13,000	715,000
10	300	12,000	3,600,000				55	13,000	715,000
							300	12,000	3,600,000
12				55	13,000	715,000			
				100	12,000	1,200,000	200	12,000	2,400,000
20				190	12,000	2,280,000	10	12,000	120,000
(25)				(15)	(12,000)	(180,000)	25	12,000	300,000
30				1	12,000	12,000	24	12,000	288,000

材 料

(単位：円)

月初有高 (180,000)	当月消費高 (6,080,000)
当月仕入高 (6,200,000)	棚卸減耗費 (12,000)
<u>6,380,000</u>	月末有高 (288,000)
	<u>6,380,000</u>

1 月初有高 問題文(6/1)より、180,000

2 当月仕入高

購入原価＝購入代金＋引取費用＋内部材料副費

(6/5)分＝@12,000×200＋80,000＋@12,000×5%×200＝2,600,000

(6/10)分＝@11,000×300＋135,000＋@11,000×5%×300＝3,600,000

当月仕入高＝(6/5)分＋(6/10)分＝2,600,000＋3,600,000＝6,200,000

3 当月消費高＝(6/6)分＋{(6/12)分－(6/25)戻り分}＋(6/20)分

＝2,065,000＋(1,915,000－180,000)＋2,280,000＝6,080,000

※先入先出法における戻り分は、最後に出したものから順に戻ってくると考える。

したがって、(6/25)戻り分は(6/12)分の戻りだから、(6/12)分のうち最後に出した分から15個、つまり、@12,000のものが15個戻ってきたとして、計算する。

4 棚卸減耗費＝@12,000×1＝12,000

※棚卸減耗は、どの時点で発生したか解らないので、判明時を発生時とみなし、帳簿残高を減らす(払出と同じ処理)。

5 月末有高＝@12,000×24＝288,000

6 当月消費高＝月初有高＋当月仕入高－棚卸減耗費－月末有高

＝180,000＋6,200,000－12,000－288,000＝6,080,000

氏名

(問題・解答用紙)

得点

/ 20

問 題 下記の一連の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も
適当と思われるものを選ぶこと。(20 点)

- 材 料 材 料 副 費 買 掛 金 貸 金 ・ 給 料
材料副費差異 仕 掛 品 製 造 間 接 費 製造間接費配賦差異
- (1) 当月、素材 500kg (購入対価 1,500 円/kg)、工場消耗品 40,000 円 (購入対価) を
掛けで購入した。なお、購入にさいしては、材料副費として 63,200 円を予定配賦
している。(材料副費…材料購入時の付随費用のこと)
- (2) 当月の材料副費の実際発生額は 80,000 円であったので、(1) の材料副費予定配賦
額との差額を材料副費差異勘定に振り替える。
- (3) 当月の労務費の実際消費高を計上する。なお、直接工の作業時間報告書によれば、
直接作業時間 (加工および段取時間) は 906 時間、間接作業時間は 20 時間、手待
時間が 10 時間であった。当工場において適用される直接工の予定賃率は 1 時間当
たり 1,200 円である。
- (4) 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に予定配賦した。なお、
当工場の年間の製造間接費予算は 40,608,000 円、年間の予定総直接作業時間は
11,280 時間である。
- (5) 当月の製造間接費の実際発生額は 3,328,000 円であったので、(4) の予定配賦額
との差額を製造間接費配賦差異勘定に振り替える。

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料		買 掛 金 材 料 副 費	
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

問 題 下記の一連の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。(20点)

- 材 料 材 料 副 費 買 掛 金 賃 金 ・ 給 料
 材料副費差異 仕 掛 品 製 造 間 接 費 製造間接費配賦差異
- (1) 当月、素材 500kg (購入対価 1,500 円/kg)、工場消耗品 40,000 円 (購入対価) を掛けで購入した。なお、購入にさいしては、材料副費として 63,200 円を予定配賦している。(材料副費…材料購入時の付随費用のこと)
- (2) 当月の材料副費の実際発生額は 80,000 円であったので、(1) の材料副費予定配賦額との差額を材料副費差異勘定に振り替える。
- (3) 当月の労務費の実際消費高を計上する。なお、直接工の作業時間報告書によれば、直接作業時間 (加工および段取時間) は 906 時間、間接作業時間は 20 時間、手待時間が 10 時間であった。当工場において適用される直接工の予定賃率は 1 時間当たり 1,200 円である。
- (4) 直接作業時間を配賦基準として製造間接費を各製造指図書に予定配賦した。なお、当工場の年間の製造間接費予算は 40,608,000 円、年間の予定総直接作業時間は 11,280 時間である。
- (5) 当月の製造間接費の実際発生額は 3,328,000 円であったので、(4) の予定配賦額との差額を製造間接費配賦差異勘定に振り替える。

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	853,200	買 掛 金 材 料 副 費	790,000 63,200
(2)	材料副費差異	16,800	材 料 副 費	16,800
(3)	仕 掛 品 製 造 間 接 費	1,087,200 36,000	賃 金 ・ 給 料	1,123,200
(4)	仕 掛 品	3,261,600	製 造 間 接 費	3,261,600
(5)	製造間接費配賦差異	66,400	製 造 間 接 費	66,400

- (1) 材料費の計算
 購入原価 = 購入代金 + 材料副費 = $1,500 \text{ 円/kg} \times 500\text{kg} + 400,000 + 63,200$
 $= 853,200$
- (2) 材料副費差異の把握
 材料副費差異 = 材料副費実際発生額 - 材料副費予定配賦額
 $= 80,000 - 63,200 = 16,800$ (借方差異)
- (3) 労務費の計算
 直接労務費 = 予定消費賃率 $\times$ 直接作業時間 = $@1,200 \times 906 = 1,087,200$
 間接労務費 = 予定消費賃率 $\times$ 間接作業時間 = $@1,200 \times (20+10) = 36,000$
- (4) 製造間接費の予定配賦
 製造間接費予定配賦額 = 予定配賦率 $\times$ 実際直接作業時間
 $= (\text{年間製造間接費予算} / \text{年間総直接作業時間}) \times \text{実際直接作業時間}$
 $= (40,608,000 / 11,280) \times 906 = 3,261,600$
- (5) 製造間接費配賦差異の把握
 製造間接費配賦差異 = 製造間接費実際発生額 - 製造間接費予定配賦額
 $= 3,328,000 - 3,261,600 = 66,400$ (借方差異)

氏名

(問題・解答用紙)

得点

/ 20

- 問 題 次の一連の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も
適当と思われるものを選ぶこと。(20 点)
- 材 料 材 料 副 費 買 掛 金 材 料 副 費 差 異
賃 金 ・ 給 料 仕 掛 品 製 造 間 接 費 製 造 間 接 費 配 賦 差 異
- (1) 当月、買入部品を掛けて 500,000 円購入した。なお、購入にさいしては、購入代価
の 5 % を材料副費として予定配賦している。
- (2) 当月の材料副費の発生額は 30,000 円であったので、(1) の材料副費予定配賦額と
の差異を材料副費差異勘定に振り替える。
- (3) 当月の労務費の実際消費高を計上する。なお、直接工の作業時間報告書によれば、
製造指図書番号の記入された作業は 200 時間、記入されていない作業は 10 時間であ
った。このとき、当工場において適用する予定賃率は 800 円である。また、間接工に
ついては、前月賃金未払高 200,000 円、当月賃金支払高 800,000 円、当月賃金未払高
180,000 円であった。
- (4) 当月の直接作業時間は 200 時間であったので、これにもとづき予定配賦率を適用し
て製造間接費を製造指図書に配賦する。なお、年間の製造間接費予算は 22,500,000 円
であり、配賦基準となる年間の総直接作業時間は 2,500 時間を予定している。
- (5) 当月、実際に発生した製造間接費は 1,900,000 円であったので、(4) の予定配賦額
との差額を製造間接費配賦差異勘定に振り替える。

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

問 題 次の一連の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。(20点)

- 材 料 材 料 副 費 買 掛 金 材 料 副 費 差 異
賃 金 ・ 給 料 仕 掛 品 製 造 間 接 費 製 造 間 接 費 配 賦 差 異
- (1) 当月、買入部品を掛けで 500,000 円購入した。なお、購入にさいしては、購入代価の5%を材料副費として予定配賦している。
- (2) 当月の材料副費の発生額は 30,000 円であったので、(1) の材料副費予定配賦額との差異を材料副費差異勘定に振り替える。
- (3) 当月の労務費の実際消費高を計上する。なお、直接工の作業時間報告書によれば、製造指図書番号の記入された作業は 200 時間、記入されていない作業は 10 時間であった。このとき、当工場において適用する予定賃率は 800 円である。また、間接工については、前月賃金未払高 200,000 円、当月賃金支払高 800,000 円、当月賃金未払高 180,000 円であった。
- (4) 当月の直接作業時間は 200 時間であったので、これにもとづき予定配賦率を適用して製造間接費を製造指図書に配賦する。なお、年間の製造間接費予算は 22,500,000 円であり、配賦基準となる年間の総直接作業時間は 2,500 時間を予定している。
- (5) 当月、実際に発生した製造間接費は 1,900,000 円であったので、(4) の予定配賦額との差額を製造間接費配賦差異勘定に振り替える。

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	525,000	買 掛 金 材 料 副 費	500,000 25,000
(2)	材 料 副 費 差 異	5,000	材 料 副 費	5,000
(3)	仕 掛 品 製 造 間 接 費	160,000 788,000	賃 金 ・ 給 料	948,000
(4)	仕 掛 品	1,800,000	製 造 間 接 費	1,800,000
(5)	製 造 間 接 費 配 賦 差 異	100,000	製 造 間 接 費	100,000

- (1) 材料費の計算
 $\text{購入原価} = \text{購入代金} + \text{材料副費} = 500,000 + 500,000 \times 5\% = 525,000$
- (2) 材料副費差異の把握
 $\text{材料副費差異} = \text{材料副費実際発生額} - \text{材料副費予定配賦額}$
 $= 30,000 - 25,000 = 5,000$ (借方差異)
- (3) 労務費の計算
 直接工：直接労務費 = 予定消費賃率 $\times$ 直接作業時間 = $@800 \times 200 = 160,000$
 間接労務費 = 予定消費賃率 $\times$ 間接作業時間 = $@800 \times 10 = 8,000$
 間接工：間接労務費 当月消費 = 当月支払 - 前月末払 + 当月未払
 $= 800,000 - 200,000 + 180,000 = 780,000$
- (4) 製造間接費の予定配賦
 $\text{製造間接費予定配賦額} = \text{予定配賦率} \times \text{実際直接作業時間}$
 $= (\text{年間製造間接費予算} / \text{年間総直接作業時間}) \times \text{実際直接作業時間}$
 $= (22,500,000 / 2,500) \times 200 = 1,800,000$
- (5) 製造間接費配賦差異の把握
 $\text{製造間接費配賦差異} = \text{製造間接費実際発生額} - \text{製造間接費予定配賦額}$
 $= 1,900,000 - 1,800,000 = 100,000$ (借方差異)